



一人の健康から地球の未来まで

AKATSUKA グリーン通信

Green Communication

vol.172 2013.7月号

夏場の寄せ植えにピッタリ！ アンゲロニア

アンゲロニアは中南米から西インド諸島にかけて自生する熱帯性の多年草で、高温多湿に強い性質があり、夏の草花として注目されています。ニチニチソウやセンニチコウなど、夏の草花の多くは暑さには強くても多湿は嫌うものが多いのですがそんな中、アンゲロニアは多湿にも強いのが大きな特長です。特に夏場の寄せ植えなどは、蒸れてしまい、すぐにダメになることが多いのですが、アンゲロニアならそんなこともありません。

品種改良で 増えるバリエーション

アンゲロニアが注目され、園芸店に苗が出始めたのは10年以上前の事になりますが、当時はヒヨロヒヨロと伸びすぎてしまい、すぐに乱れてしまうものが多かった気がします。丈夫なのは間違いないが、行儀の悪い草花…そんな印象を持つた記憶があります。しかし、ここ5年ほどで、急激に品種改良が進み、大輪で背の高くなるタイプや、コンパクトで亂れにくいものなど、様々な品種が登場してきました。花の咲きやすさも一段と進歩しているようです。色彩的には藤色がかかった紫からピンク、白といった落ち着いたトーン



購入前に 品種タイプを確認！

注目されているため、いくつかの種苗メーカーからブランド苗としてたくさん出回っているのですが、メーカーによっては違う商品名で販売されているものがあり、多少ややこしくなっています。サフィニアでお馴染みのサントリーフラワーズでは「サマーキャンドル」、コリウスやヒューケラで有名なハルディンは「エンジェルラベンダー」という名前で販売されていますが、いずれもアンゲロニアの園芸品種です。品

お手入れのポイント

お手入れのポイントとしては、丈夫で育てやすく虫も病気もほとんど付かない草花なので難しいことは何もないませんが、多湿に強い分、逆に乾燥は嫌うため、水はしつかりと与える必要があります。特に露地の花壇では晴天が続けば定期的に灌水を行いましょう。また、花期が長いので肥料切れしないよう、追肥をマメに与えるようになりますが、植え付け時に緩効性の肥料を混ぜ込んでおけば安心でしょう。花穂は下から咲きあがつて行きますが、半分ほどの花が終わったら早めに花茎を切り戻すと次の花穂も早く咲き始め、いつもきれいに眺める事ができます。株が乱れたら、株元から10～20cmの位置まで切り戻すとまたきれいで茂ってきますが、この切り戻しは8月中旬までの作業とし、それ以降は行いません。

多年草ですが、寒さには弱いので、屋外では越冬出来ませんが、株を鉢上げしておき、乾燥気味にして暖かい室内で冬越しさせることも可能なようです。挿し芽も出来るので、9月頃に苗を作り、その株を越冬させても良いでしょう。8℃以上あれば冬越し出来る